

ようこそ 沖縄県本部町交流団の皆さん

町内の児童と交流を深める



「友好の町」沖縄県本部町と、平成3年から子どもたちの交流事業が行われています。22回目を迎えた今年は、1月28日から2月1日までの日程で、本部町から21名の交流団の皆さん(小学5年生16名、随行者5名)が本町を訪れ、町内の児童との交流を深め、白銀の大地「冬の北海道」を体験しました。

1月28日、朝5時に本部町を出発した交流団の皆さんが夕方4時過ぎに本町に到着されました。午後6時からみなくるで開かれた歓迎会では、池部町長が歓迎の挨拶を述べた後、饒平名交流団長から、



歓迎会で児童全員によりエイサーを披露



「本部町では1月19日から日本一早い桜まつりが開催されています。氷点下の北海道、雪を初めて見る児童も多く、期待に胸を膨らましています。今後ともこの交流事業が発展継続できるよう努力してまいります」と高良本部町長のメッセージが読み上



に合せ全員で元気にエイサーなどを披露し、大きな拍手を浴びていました。交流団の一



げられました。本部町の児童からは、「学校での交流、スキーやカーリングの体験を楽しみにしています」「ホームステイで交流を深め、生活文化の違いを学びたいです」などと一人ひとり自己紹介と抱負を発表した後、饒平名団長の三線(沖縄を代表する弦楽器)演奏に

行は、翌日の午前中に幾寅小学校を訪問し、歓迎集会や5年生児童との交流学習が行われ、屋外でのチューブすべりなどで交流を深めました。午後からは、落合のどんころ野外学校で犬ソリを体験し、空知川スポーツリンクスでは、落合・北落合小学校児童とカーリング体験を通して交流を深めました。リンククの上を歩くのは初体験とあって、悪戦苦闘しながらも、地元児童から、ストーンの投げ方を教わり、ミニゲームなどを楽しみました。

喜びで、釣り上げたワカサギはその場で天ぷらにして試食しました。スキー場では、金山・下金山小学校の児童とスキー体験を通じた交流が行われ、先生方や地元児童から指導を受けて、ほとんどの児童が滑れるようになりました。この日の夜は、各ホームステイ先で交流を深めました。1月31日の早朝には、ホームステイ先の家族に見送られ、本町を離れた交流団の皆さんは、札幌ドームや札幌市内を見学し、翌日、たくさんの思い出を胸に帰路につきました。今年の7月には、本町の6年生が本部町を訪問する予定になっています。

厳寒 真冬のかなやま湖を満喫

第8回氷上ばかんす!



アラスカ野球

1月27日、一面に銀世界が広がるかなやま湖の特設会場で、町商工会青年部(川村拓志部長)主催による「第8回かなやま湖氷上ばかんす!」が行われました。この日は、時折突風が吹く真冬を体感するには絶好の天候、会場には町内外から約300名の皆さんが来場し、氷上での様々な催しを楽しみました。



ワカサギすくい

ム、札幌や旭川から6チームの合わせて9チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。競技は三角ベースの逆周り6人制、各打者が事前にアルコールとノンアルコールの箱を選択し、抽選で冷たいジュースや熱いお茶、カキ氷、お酒やビールなどをオーダーし、打撃後に飲み干して一塁へ走ります。試合では、カキ氷や熱いお茶に苦戦しベースを踏む前にアウトになってしまうなど、笑いと歓声の中、参加した皆さんは、ハッスルプレー全開でした。結果は、地元から参加した幾小の先



スノーラフティング



犬ぞり体験

生方で編成されたチーム「省三ばかんす」や「南富中野球部」、「日鉄ライムストーン」も健闘しましたが、一昨年優勝、昨年準優勝の「チームサウスヤード」(札幌)が優勝しました。会場には家族連れや子ども達が楽しめる催しが、盛



スノーフラッグ

りだくさん行われ、雪で作った生けすの約2千匹の「ワカサギすくい」では、すくったワカサギを売店で天ぷらにし、揚げたてのワ

かなやま湖アイス・ラン

NPO法人南富良野まちづくり観光協会主催の日本一寒くて孤独な氷上ランニングレース「かなやま湖アイス・ラン」が行われました。クロスカントリースキーやスノーシューなど参加スタイルもフリーで、東京や札幌、富良野近郊などから参加した20名は、ダム堤から氷上ばかんす特設会場まで約6kmの道なき氷上での過酷なレースに挑戦し、全員完走を果たしました。

